

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年6月28日

【事業年度】 第50期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

【会社名】 日本システムウェア株式会社

【英訳名】 NIPPON SYSTEMWARE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役執行役員社長 多田尚二

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区桜丘町31番11号

【電話番号】 03-3770-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員副社長 桑原公生

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区桜丘町31番11号

【電話番号】 03-3770-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員副社長 桑原公生

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月		平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高	(千円)	24,484,661	26,007,344	26,944,822	28,163,795	29,943,272
経常利益	(千円)	1,018,552	1,164,321	1,413,120	1,866,340	2,064,956
親会社株主に帰属する 当期純利益	(千円)	221,070	390,684	904,101	1,016,860	1,223,718
包括利益	(千円)	230,192	419,523	929,334	1,027,876	1,200,960
純資産額	(千円)	11,729,337	11,928,842	12,605,751	13,286,131	14,151,808
総資産額	(千円)	19,576,160	19,369,819	19,686,298	20,229,239	21,018,492
1株当たり純資産額	(円)	786.01	798.72	846.03	891.70	949.80
1株当たり当期純利益	(円)	14.84	26.22	60.68	68.25	82.13
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	59.8	61.4	64.0	65.7	67.3
自己資本利益率	(%)	1.9	3.3	7.4	7.9	8.9
株価収益率	(倍)	21.9	14.9	7.6	12.8	11.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	711,967	1,255,391	531,187	1,594,883	1,706,090
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△140,300	△409,371	△146,760	21,086	△303,247
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△1,145,606	△742,230	△1,129,283	△1,416,132	△358,293
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	2,926,505	3,034,329	2,304,241	2,516,189	3,557,361
従業員数	(名)	1,935	1,912	1,926	1,955	1,959

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

4 従業員数は、就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月		平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月
売上高	(千円)	23,622,946	25,092,659	25,767,623	26,844,808	28,431,291
経常利益	(千円)	979,437	1,155,167	1,374,903	1,874,345	2,077,298
当期純利益	(千円)	231,686	410,321	898,152	1,050,778	1,242,324
資本金	(千円)	2,538,300	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
発行済株式総数	(株)	14,900,000	14,900,000	14,900,000	14,900,000	14,900,000
純資産額	(千円)	11,411,801	11,616,774	12,300,976	13,007,877	13,902,954
総資産額	(千円)	19,126,492	18,923,986	19,229,855	19,753,306	20,481,536
1株当たり純資産額	(円)	765.90	779.66	825.58	873.02	933.10
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	15.00 (7.50)	15.00 (7.50)	15.00 (7.50)	15.00 (7.50)	30.00 (15.00)
1株当たり当期純利益	(円)	15.55	27.54	60.28	70.52	83.38
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	59.7	61.4	64.0	65.9	67.9
自己資本利益率	(%)	2.0	3.6	7.5	8.3	9.2
株価収益率	(倍)	20.9	14.2	7.6	12.4	11.2
配当性向	(%)	96.5	54.5	24.9	21.3	36.0
従業員数	(名)	1,601	1,560	1,557	1,557	1,561

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 平成28年3月期の1株当たり配当額30.00円には、創業50年記念配当15.00円を含んでおります。
3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2 【沿革】

年月	事項
昭和41年8月	株式会社事務計算センターを東京都港区に設立 ソフトウェア開発事業及び受託計算事業を開始
昭和43年10月	運用管理サービス事業を開始
昭和50年12月	自社ビル(現 本店所在地)を東京都渋谷区に取得
昭和51年2月	社団法人ソフトウェア産業振興協会(現 一般社団法人情報サービス産業協会)に加盟
昭和53年6月	ファームウェアおよび論理回路に関する開発事業を開始
昭和55年6月	オフィスコンピュータおよびOA機器の販売に関する事業を開始
昭和57年3月	日本システムウェア株式会社に商号変更
昭和57年4月	田町営業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を東京都港区に開設、ソフトウェア開発の一括受託 業務を拡大
昭和60年8月	府中営業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を東京都府中市に開設
昭和61年3月	大阪営業所(現 大阪事業所)を大阪府大阪市に開設、地方展開を強化
昭和61年9月	新本社ビル竣工
平成元年8月	福岡営業所(現 福岡事業所)を福岡県福岡市に開設
平成元年10月	我孫子営業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を千葉県我孫子市に開設
平成2年2月	通商産業省(現 経済産業省)からシステムインテグレータ企業として認定
平成2年12月	川崎事業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を神奈川県川崎市に開設
平成3年1月	八王子事業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を東京都八王子市に開設
平成3年8月	研修・保養施設(山中湖山荘)を山梨県山中湖村に開設
平成3年11月	100%子会社システムウェアリンクージ株式会社(平成7年5月 日本テクノウェイブ株式会社に 商号変更)を設立
平成4年4月	新横浜事業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を神奈川県横浜市に開設
平成4年6月	溝ノ口事業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を神奈川県川崎市に開設
平成6年3月	山梨県一宮町(現 笛吹市)に新事業拠点(山梨ITセンター)としての土地取得
平成6年6月	通商産業省(現 経済産業省)システム監査企業台帳に登録
平成7年1月	海外から先進技術・製品の導入開始
平成8年4月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成9年5月	九段下事業所(現 渋谷地区の各事業所に統合)を東京都千代田区に開設
平成9年10月	品質保証の国際規格ISO9001認証取得

年月	事項
平成10年8月	山梨ITセンターを山梨県一宮町（現 笛吹市）に開設、データセンター事業を開始
平成10年12月	品質保証の国際規格ISO9002認証取得
平成11年3月	山梨ITセンターが、通商産業省（現 経済産業省）情報システム安全対策実施事業所として認定
平成11年4月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成11年8月	山梨ITセンターが「日経ニューオフィス賞ニューオフィス情報奨励賞」受賞
平成11年10月	山梨ITセンターが「グッドデザイン賞」受賞
平成11年12月	渋谷事業所を東京都渋谷区に開設
平成12年3月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定 通商産業省から特定システムオペレーション企業として認定
平成12年7月	広島事業所を広島県広島市に開設
平成13年4月	一般財団法人日本情報処理開発協会からプライバシーマーク使用許諾事業者として認定
平成13年6月	山梨ITセンターが「日本免震構造協会賞作品賞」受賞
平成13年10月	名古屋事業所を愛知県名古屋市に開設
平成14年7月	情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度認証取得
平成14年9月	エヌエスダブリュ販売株式会社を設立
平成15年1月	渋谷ITコアおよび渋谷データセンターを東京都渋谷区に開設
平成15年10月	品川事業所（現 渋谷地区の各事業所に統合）を東京都品川区に開設 渋谷CIビルを東京都渋谷区に開設
平成15年12月	経済産業省情報セキュリティ監査企業台帳に登録
平成17年2月	環境に関する国際規格ISO14001認証登録
平成18年3月	渋谷テクノロジーセンター（現 渋谷地区の各事業所に統合）を東京都渋谷区に開設
平成19年3月	情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格ISO/IEC27001認証取得
平成19年4月	厚生労働省から次世代育成支援対策を推進している企業として認定
平成19年10月	ITサービスマネジメントシステムの国際規格ISO/IEC20000認証取得
平成20年1月	株式会社リンクマネージの事業を譲受け
平成21年9月	クラウドサービス事業を開始
平成21年10月	100%子会社NSWウィズ株式会社（現 連結子会社）を設立
平成22年4月	100%子会社京石刻恩信息技术有限公司（現 連結子会社）を中国北京市に設立
平成25年5月	IoT/M2M事業を開始
平成25年7月	日本テクノウェイブ株式会社とエヌエスダブリュ販売株式会社を合併し、NSWテクノサービス株式会社（現 連結子会社）に商号変更
平成28年3月	高松データセンターを香川県高松市に開設

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社で構成しており、ITソリューション、プロダクトソリューションの2セグメントに関する事業を行っております。各事業における当社グループ各社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

<ITソリューション>

当セグメントでは、コンサルティングからシステム開発、導入、運用、保守までを一貫して行うシステムインテグレーションサービスを通してお客様の経営課題を解決するトータルソリューションを提供しております。具体的には、ソリューション事業では各業種向けソリューションやネットワークの構築・保守などを展開しております。システム運用事業ではお客様の情報システムの運用設計から構築、管理まで総合的なマネジメントサービスを提供しております。データセンター事業では自社データセンターによるハウジング・ホスティングサービスのほか、クラウドサービスなどを提供しております。

〔関係会社〕 NSWテクノサービス㈱、京石刻恩信息技术(北京)有限公司

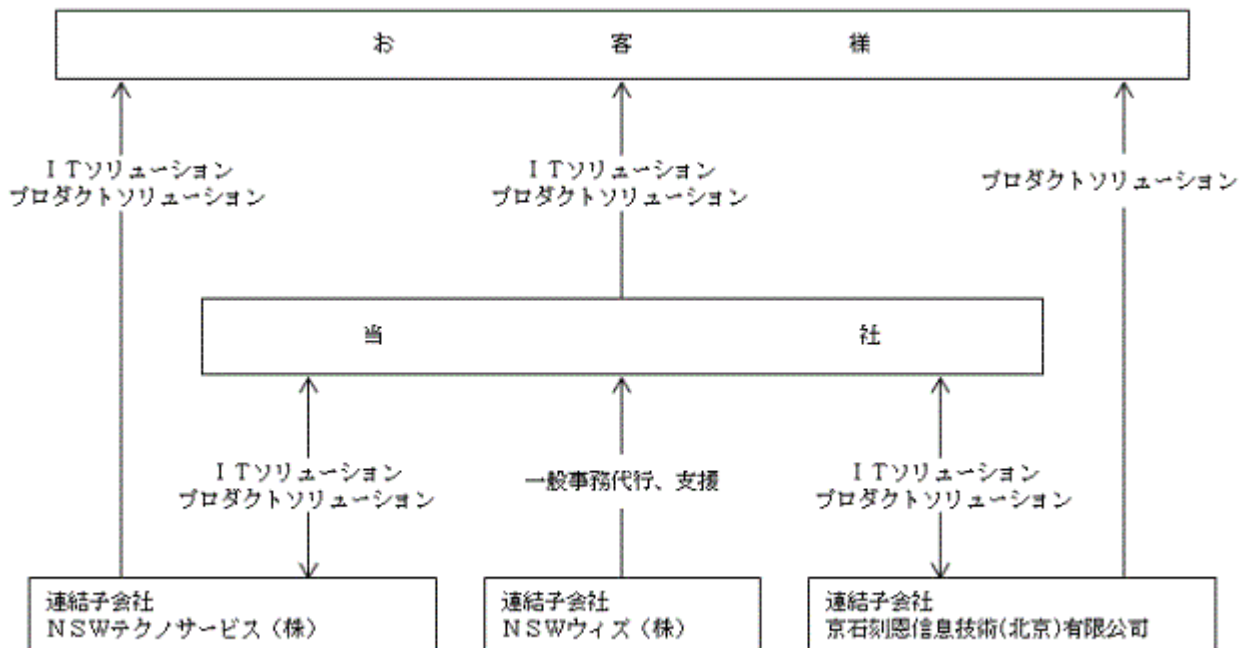
<プロダクトソリューション>

当セグメントでは、LSI、ミドルウェア、アプリケーションの各レイヤをシームレスにつなぐエンベデッドトータルソリューションを提供しております。具体的には、組込みソフトウェア開発事業では、車載機器や通信装置、産業機器などのソフトウェア開発ならびにモバイル関連のアプリケーション開発を行っております。デバイス開発事業ではLSIの設計や通信・画像処理などのボード設計を行っております。

〔関係会社〕 NSWテクノサービス㈱、京石刻恩信息技术(北京)有限公司

事業系統図

以上述べました事項を示した事業系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 または被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) NSWテクノサービス㈱ (注) 3	東京都 渋谷区	200,000	ITソリューション、 プロダクトソリューション	(所有) 100.0	当社が業務の一部を委託している。 当社が事務所を賃貸している。 役員の兼任3名
京石刻恩信息技术(北京) 有限公司	北京市 朝陽区	万人民币元 200	ITソリューション、 プロダクトソリューション	(所有) 100.0	当社が業務の一部を委託している。
NSWウィズ㈱	東京都 渋谷区	30,000	一般事務に関する業務代 行、支援サービス	(所有) 100.0	当社が業務の一部を委託している。 当社が事務所を賃貸している。

(注) 1 上記の会社は、有価証券届出書又は有価証券報告書提出会社ではありません。

2 「主要な事業の内容」欄には、主にセグメントの名称を記載しております。

3 特定子会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成28年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ITソリューション	1,105
プロダクトソリューション	757
全社(共通)	97
合計	1,959

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。

2 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成28年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,561	41.2	15.0	6,026

平成28年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ITソリューション	859
プロダクトソリューション	643
全社(共通)	59
合計	1,561

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社では、全日本金属情報機器労働組合東京地方本部品川地域支部日本システムウェア分会の組合が結成されております。なお、労使関係に特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国をはじめとする新興国経済の減速などによる先行き不透明感はあるものの、企業収益や雇用環境の改善などにより緩やかな回復基調で推移しました。

情報サービス産業界におきましては、企業収益の改善に伴いIT投資が持ち直しの傾向にあるほか、マイナンバー関連の需要や金融系の大型案件などにより事業環境は堅調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは、中期ビジョンとして「事業構造の変革」を掲げ、中長期的な成長の牽引役となる新たな収益源の創出に向けて「新事業への戦略的投資」、及び安定的な利益創出の中核として「成長への事業基盤の整備」を基本方針に、コア技術基盤の構築と新市場における事業拡大に取り組んでまいりました。

これらの結果、当連結会計年度の業績につきましては、受注高は308億79百万円（前年同期比6.1%増）、売上高は299億43百万円（同6.3%増）、営業利益は20億20百万円（同14.3%増）、経常利益は20億64百万円（同10.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は12億23百万円（同20.3%増）となりました。

当連結会計年度の報告セグメント別の概況は、次のとおりであります。

<ITソリューション>

売上高につきましては、クラウドやシステム運用などのサービス系事業が増加し、増収となりました。利益につきましては、パッケージベースの大型ソリューション案件が前期からの反動で減少したことや不採算案件などが影響し、減益となりました。これらの結果、受注高は185億18百万円（前年同期比4.4%増）、売上高は175億48百万円（同3.5%増）、営業利益は6億55百万円（同6.3%減）となりました。

<プロダクトソリューション>

売上高につきましては、デバイス開発事業及びオートモーティブを中心とした組込みソフトウェア開発事業が堅調に推移し、増収となりました。利益につきましては、売上増に伴う増加に加え生産効率の向上により、増益となりました。これらの結果、受注高は123億60百万円（前年同期比8.7%増）、売上高は123億94百万円（同10.6%増）、営業利益は13億64百万円（同27.9%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、有形固定資産の取得や配当金の支払などの支出を営業活動の結果得られた資金により賄い、前連結会計年度末と比べ10億41百万円増加し、35億57百万円となりました。

当連結会計年度の活動別概況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、17億6百万円(前年同期比1億11百万円の収入の増加)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益20億54百万円、減価償却費4億77百万円、法人等の支払額8億42百万円、未払消費税等の減少額3億83百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3億3百万円(前年同期は21百万円の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2億50百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億58百万円(前年同期比10億57百万円の支出の減少)となりました。これは主に配当金の支払3億35百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
ITソリューション	17,666,218	104.2
プロダクトソリューション	12,276,107	108.9
合計	29,942,325	106.1

(注) 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入実績(千円)	前年同期比(%)
ITソリューション	1,485,769	98.9
プロダクトソリューション	24,361	163.4
合計	1,510,131	99.6

(注) 金額は仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ITソリューション	18,518,991	104.4	8,361,143	113.1
プロダクトソリューション	12,360,661	108.7	2,371,004	98.6
合計	30,879,652	106.1	10,732,147	109.6

(注) 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
ITソリューション	17,548,358	103.5
プロダクトソリューション	12,394,914	110.6
合計	29,943,272	106.3

(注) 1 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
日本電気(株)グループ	5,940,175	21.1	5,961,589	19.9

3 【対処すべき課題】

(1) IoT分野の事業拡大

注力事業であるIoT分野を第3の柱として確立すべく、他社にはない独自性を発揮した新たな価値を創造し収益の柱として育て上げることが、中長期的な成長に向けた必須要件であると認識しております。そのため、当社グループがこれまで培ってきたITソリューション事業とプロダクトソリューション事業のさらなる融合によりコーディネート力を強化するとともに、アライアンスの推進などによりサービスメニューの拡充を図り、IoT分野の事業拡大に取り組んでまいります。

(2) コア事業の顧客基盤強化と高付加価値化

ITサービスに対するニーズは多様化、高度化し、業務効率化を目指すだけでなく、競争力を高めるためのIT投資へと変化しています。このような状況下において、現在の収益基盤をより確固たるものにするためには、コア事業の顧客基盤強化と高付加価値化が不可欠であると認識しております。そのため、受託型から提案型へ、開発からソリューション、サービスへ軸足を移したビジネスを展開するとともに、今後も引き続き大きな成長が期待されるエネルギーや社会インフラなどの分野も視野に入れた新規事業を創造、確立してまいります。

(3) 人材の確保・育成

当社グループにおける最大の資産は人材であり、中期ビジョンを実現するためには、従来にも増して人材の質的向上が不可欠であります。そのため、高度な技術力・提案力・プロジェクトマネジメント力などのスキルに加え、企画力・事業推進力など新たな価値創造に挑戦しつづける活力ある人材を育成すべく、教育体系の充実を図り、実践的な教育を実施してまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業活動その他に関するリスクについて、投資判断上重要であると考えられる事項は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 特定の取引先への依存度について

当社グループは、連結売上高のうち日本電気株式会社ならびにその系列企業への依存度が高く当連結会計年度における売上高に占める割合は、日本電気株式会社ならびに系列企業を含めたグループ全体が19.9%となっております。なお、当社と日本電気株式会社ならびにその系列企業との間には取引基本契約が締結されており、同社グループとの取引関係については取引開始以来長年に亘り安定したものとなっております。しかし、国内景気の状態によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 情報漏洩について

当社グループは、業務遂行上、顧客が有する様々な機密情報を取り扱う場合があり、慎重な対応と厳格な情報管理の徹底が当社グループに課せられた社会的責務であると認識しております。これに対し当社は、データセンターにおけるISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格）の認証取得、ならびにプライバシーマークの取得など万全の対策をとっております。さらに、従業員及び協力会社社員には機密保持に関する誓約書を取り交わした上で適切な教育を継続的に行い、各人の情報管理への意識を高めるとともに、暗号化ツールの導入を行うなどして、内部からの情報漏洩が発生しないよう努めております。しかし、これらの施策にもかかわらず機密情報が万一漏洩した場合には、損害賠償責任、社会的信用の喪失などの発生により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 不採算案件について

当社グループは、顧客からの要求事項に基づくソフトウェアの受託設計・開発において、顧客との緊密なコミュニケーションを図るとともに、受注・見積審議会やPMO（プロジェクト・マネジメント・オフィス）による管理の下、案件の採算性悪化の防止に注力しております。しかし、顧客都合による開発途中での大幅な仕様変更や、納品物に対する顧客との認識の不一致などにより生じるリスクを完全に排除することは困難であり、そのような事象が発生し、当初計画していた品質・コスト・納期を維持できずに案件が不採算化した場合、その規模によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 受注環境について

情報サービス産業界におきましては、企業収益の改善を背景にIT投資意欲の高まりが期待される一方で、IT投資に対するコスト意識はより一層高まっております。このような状況下、当社グループでは、従来にも増して顧客との信頼関係を深め、業務量の確保に努めるとともに、生産性向上に注力し、コスト削減を徹底しております。しかし、生産コストダウン要請が想定範囲を超えた場合、また、顧客の信用状態が悪化した場合などには、稼働率の低下や受注済み案件の採算確保が困難となることが予想され、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) データセンター事業について

当社グループは、データセンター事業において、顧客のシステムを継続的かつ安定的に稼働させ、また、万一システム障害が発生した際には、迅速かつ適切な対応により一刻も早く復旧させることが最優先課題だと認識しております。そのため、免震構造を採用したデータセンターの設置、システムのバックアップ機能の充実、電源設備の増強、社員によるシステムの常時運用・監視など、ハード、ソフト両面での整備を徹底しております。しかし、想定範囲を超える大規模な自然災害や人的災害などによってシステム障害が発生し、サービスの提供が滞る事態となった場合、その程度によっては当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 投資について

当社グループが独自の技術力やビジネスモデルを有するベンチャー企業へ出資・融資などの投資を行なう際は、当該企業の業況や今後の事業計画などを精査し、慎重かつ十分な協議を行ない、投資リスクの回避に努めております。しかし、当該企業の事業計画が当初の予定どおりに進捗しなかった場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 自然災害などについて

当社グループが事業展開している地域において、予期せぬ自然災害や人的災害、感染症の拡大などが発生した際には、迅速かつ適切な対応による復旧及び事業継続が最優先であると認識しております。しかし、想定を超える規模の災害により、円滑なサービス提供が困難となった場合、その程度によっては当社グループの事業遂行や経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

契約会社名	相手先	契約	契約の内容	契約期間
日本システムウェア株式会社(当社)	日本電気株式会社	基本契約書	売買、請負等に関し基本的事項を定める契約	昭和51年4月1日から昭和52年3月31日まで以降1年ごとの自動更新

6 【研究開発活動】

当社グループの当連結会計年度における研究開発費4億66百万円であります。なお、セグメント別の研究開発の主な内容、金額等は次のとおりであります。

<ITソリューション>

当セグメントでは、ソリューション事業、アウトソーシング事業を中心とした既存事業の拡充を図るとともに、新規事業分野、新技術分野に対する調査研究・開発・検証・教育等を実施いたしました。当セグメントに係る研究開発費は2億79百万円であります。

<プロダクトソリューション>

当セグメントでは、組込みソフトウェア開発事業、デバイス開発事業に関連する既存技術、自社製品・サービスを強化するとともに、新規事業分野に対する調査研究・検証・教育等を実施いたしました。当セグメントに係る研究開発費は1億86百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態

当連結会計年度末における総資産は、210億18百万円となり、前連結会計年度末比7億89百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産の減少(1億40百万円)があったものの、現金及び預金の増加(10億41百万円)があったことによるものであります。

総負債は、68億66百万円となり、前連結会計年度末比76百万円の減少となりました。これは主に、賞与引当金の増加(1億6百万円)及び退職給付に係る負債の増加(1億22百万円)があったものの、未払消費税等の減少(3億83百万円)があったことによるものであります。

純資産は、141億51百万円となり、前連結会計年度末比8億65百万円の増加となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ1.6ポイント増加し、67.3%となりました。

(2) 経営成績

「1 業績等の概要 (1)業績」をご参照ください。

(3) キャッシュ・フローの状況

「1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、「4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

今後の国内景気につきましては、企業収益や雇用環境の改善などにより緩やかな回復基調が続くものと期待されますが、海外景気の下振れ懸念や金融資本市場の変動、九州における震災の影響などにより先行き不透明感は増しております。

情報サービス産業界におきましては、IoT (Internet of Things) の浸透によるビッグデータ活用ニーズの急伸やクラウドサービスやスマートデバイスを活用したビジネス、エネルギーや社会インフラ関連など、新たな分野やサービスへの事業展開が本格化しております。一方で技術者不足が常態化しており、人材の確保が大きな課題となっております。

このような状況を踏まえ、当社グループは、「IoT分野の事業拡大」ならびに「コア事業の顧客基盤強化と高付加価値化」に取り組むとともに、戦略的事業投資やアライアンス拡充などにより「事業基盤の強化」を図り、お客様のビジネスにイノベーションをもたらす価値創造パートナーとして、質の高いトータルソリューションの提案を実践してまいります。

加えて、案件の採算性悪化の未然防止に向け、受注・見積審議会による案件受注前のチェック、ならびにPMO (プロジェクト・マネジメント・オフィス) による業務着手後の適時管理を継続してまいります。

さらに、グループ間の事業連携を継続的に図るとともに、管理部門における業務とリソースの最適化によりグループシナジーの最大化に取り組むほか、「コンプライアンスの徹底」「内部統制システムの強化」「内部監査の強化」などを確実に実行し、リスク管理を引き続き強化・徹底していく所存です。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

特記すべき事項はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社および連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成28年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都渋谷区)	ITソリューション、 全社	情報サービス 生産設備 その他設備	423,748	55,257	1,005,984 (423.74)	1,191	1,486,181	403
渋谷事業所 (東京都渋谷区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備	7,997 (224,964)	2,319	—	—	10,317	651
渋谷ITコア (東京都渋谷区)	ITソリューション	情報サービス 生産設備 その他設備	733,940 (506,484)	70,493	—	—	804,433	52
渋谷CIビル (東京都渋谷区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備	78,562	3	745,846 (343.73)	—	824,412	543
山梨ITセンター (山梨県笛吹市 一宮町)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備 研究開発設備	1,486,642	229,600	2,108,493 (62,453.28)	356	3,825,093	74
大阪事業所 (大阪府大阪市 中央区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備	6,987 (12,090)	10	—	—	6,998	58
名古屋事業所 (愛知県名古屋 市中村区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備	4,377 (6,545)	49	—	—	4,427	51
広島事業所 (広島県広島市 中区)	ITソリューション	情報サービス 生産設備	270 (4,233)	—	—	—	270	6
福岡事業所 (福岡県福岡市 博多区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備	2,393 (15,359)	752	—	—	3,145	84

- (注) 1 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。
 2 全社として記載している内容は、特定の事業部門に区別できない管理部門等に該当するものであります。
 3 帳簿価額のうち「建物及び構築物」の()内は、建物の年間賃借料であります。
 4 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具であります。
 5 上記のほか、リース契約による主な賃借設備は、下記のとおりであります。

名称	数量	リース期間	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)	備考
事務機器	1台	5年	199	—	所有権移転外ファイナンス・リース

(2) 国内子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
NSWテクノ サービス株式 会社	本社 (東京都 渋谷区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備 その他設備	— (16,350)	1,016	—	—	1,016	331
NSWウィズ 株式会社	本社 (東京都 渋谷区)	一般事務に関する 業務代行、支 援サービス	その他設備	— (7,605)	812	—	—	812	30

(注) 1 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2 帳簿価額のうち「建物及び構築物」の()内は、建物の年間賃借料であります。

なお、NSWウィズ株式会社の「建物及び構築物」の年間賃借料は、すべて提出会社から賃借しているものに係るものであります。

(3) 在外子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
京石刻恩信息 技術(北京)有 限公司	本社 (北京市 朝陽区)	ITソリューション、 プロダクト ソリューション	情報サービス 生産設備 その他設備	— (19,582)	3,053	—	—	3,053	37

(注) 1 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2 帳簿価額のうち「建物及び構築物」の()内は、建物の年間賃借料であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	45,000,000
計	45,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成28年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,900,000	14,900,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	14,900,000	14,900,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年6月27日 (注)	—	14,900,000	2,961,700	5,500,000	△2,961,700	86,080

(注) 資本準備金の資本金への組み入れによるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成28年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	24	23	14	58	4	3,304	3,427	—
所有株式数(単元)	—	21,204	951	53,223	9,271	44	64,274	148,967	3,300
所有株式数の割合(%)	—	14.23	0.64	35.73	6.22	0.03	43.15	100.00	—

- (注) 1 自己株式230株は、「個人その他」に2単元および「単元未満株式の状況」に30株が含まれております。
 2 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成28年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社タダ・コーポレーション	東京都調布市深大寺元町3丁目18番地5	5,000	33.55
多田修人	東京都調布市	2,281	15.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	802	5.38
日本システムウェア従業員持株会	東京都渋谷区桜丘町31番11号	483	3.24
多田尚二	東京都調布市	313	2.10
多田直樹	東京都調布市	300	2.01
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	295	1.98
日本電気株式会社	東京都港区芝5丁目7番1号	294	1.97
木田裕介	大阪府豊中市	293	1.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	287	1.92
計	—	10,351	69.47

- (注) 1 「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）」、「資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）」、「日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）」の所有株式数は、信託業務にかか
るものであります。
- 2 平成28年6月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、多田修人氏、株式会社タダ・コ
ーポレーション、多田直樹氏、多田尚二氏、多田順子氏が平成28年6月3日現在で以下の株式を所有してい
る旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんの
で、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
多田修人	東京都調布市	1,537	10.32
株式会社タダ・ コーポレーション	東京都調布市深大寺元町3丁目18番地5	5,000	33.56
多田直樹	東京都調布市	300	2.02
多田尚二	東京都調布市	313	2.11
多田順子	東京都調布市	166	1.12

- 3 所有株式数の千株未満、発行済株式総数に対する所有株式数の割合の小数点第3位以下は、切り捨てて表示
しております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	—	—
完全議決権株式(その他)(注) 1	普通株式 14,896,500	148,965	—
単元未満株式(注) 2	普通株式 3,300	—	—
発行済株式総数	14,900,000	—	—
総株主の議決権	—	148,965	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が30株含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本システムウェア(株)	東京都渋谷区桜丘町31番 11号	200	—	200	0.0
計	—	200	—	200	0.0

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	38	38,000
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	230	—	230	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的かつ継続的な配当を実施していくことを基本的な方針としております。

剰余金の配当は、内部留保資金の充実を図りながら、当該期の利益水準、財政状態、配当性向、将来の業績動向等を総合的に勘案した上で決定することとしております。

また、内部留保資金につきましては、将来の事業拡大ならびに経営基盤強化に備え、競争力の維持向上に努めていく所存です。

上記の方針を踏まえて、当期の期末配当金につきましては、1株につき年間15円（創業50年記念配当7円50銭を含む）とすることを決定いたしました。中間配当金として1株につき15円（創業50年記念配当7円50銭を含む）をお支払いしておりますので、年間配当金は1株につき30円となります。

当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議によって定める。」旨を定款に定めております。また、当社は、毎年3月31日および9月30日を基準日とした年2回の配当を継続する予定であります。

なお、基準日が当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年11月5日取締役会決議	223,497	15.00
平成28年5月12日取締役会決議	223,496	15.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
最高(円)	349	423	587	1,120	1,295
最低(円)	281	285	362	428	731

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年10月	11月	12月	平成28年1月	2月	3月
最高(円)	923	1,000	1,023	971	949	1,010
最低(円)	829	840	875	731	777	847

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員状況】

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長	—	多田修人	昭和9年2月1日生	昭和38年10月 株式会社共同計算センター入社 昭和39年10月 株式会社東洋計算センター入社 昭和41年8月 株式会社事務計算センター(現 日本システムウェア株式会社)設立 代表取締役社長就任 昭和51年7月 ナカヤ株式会社(現 株式会社ナカヤ)代表取締役社長就任(現任) 平成3年11月 システムウェアリンクージ株式会社(現 NSWテクノサービス株式会社)代表取締役社長就任 平成16年10月 有限会社タダ・インベストメント取締役社長就任 平成17年4月 当社代表取締役会長就任 平成19年4月 当社代表取締役会長兼社長就任 平成20年4月 当社取締役会長就任 平成21年4月 当社代表取締役会長兼社長就任 平成22年4月 当社代表取締役会長就任 平成25年4月 当社取締役会長就任(現任)	(注)3	1,537
代表取締役 執行役員 社長	—	多田尚二	昭和44年5月14日生	平成元年5月 ナカヤ株式会社(現 株式会社ナカヤ)取締役就任 平成11年7月 同社専務取締役就任(現任) 平成14年9月 エヌエスダブリュ販売株式会社(現 NSWテクノサービス株式会社)代表取締役社長就任 平成16年6月 当社取締役就任 平成18年6月 当社常務取締役就任 当社戦略企画担当委嘱 平成19年4月 当社取締役就任 当社企画室長委嘱 平成20年4月 当社代表取締役社長就任 平成21年4月 当社取締役執行役員副社長就任 当社営業担当委嘱 平成21年6月 エヌエスダブリュ販売株式会社(現 NSWテクノサービス株式会社)取締役会長就任 平成23年5月 株式会社タダ・コーポレーション代表取締役社長就任(現任) 平成23年10月 当社営業・戦略室担当委嘱 平成25年4月 当社代表取締役執行役員社長(現任) 平成27年11月 NSWテクノサービス株式会社代表取締役社長就任	(注)3	313

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員 副社長	総務人事部長 企画室・ 経理部担当	桑原 公生	昭和25年8月3日生	昭和49年4月 株式会社三菱銀行(現 株式会社三菱 東京UFJ銀行)入行 平成15年1月 当社出向 平成15年4月 当社調達部長兼経理部部长委嘱 平成15年6月 当社執行役員就任 平成16年6月 当社執行役員常務就任 平成19年4月 当社経理部長兼調達部長委嘱 平成19年6月 当社常務取締役就任 平成20年4月 当社専務取締役就任 平成21年4月 当社取締役執行役員専務就任 当社経理部長、総務部担当委嘱 平成25年4月 当社代表取締役執行役員専務就任 当社経理部・総務部担当委嘱 平成25年6月 当社企画室・総務部・人事部・ 経理部担当委嘱 平成26年4月 当社企画室・総務人事部・ 経理部担当委嘱 平成26年6月 当社取締役執行役員専務就任 平成27年4月 当社取締役執行役員副社長就任(現 任) 当社総務人事部長、企画室・ 経理部担当委嘱(現任)	(注)3	6
取締役 執行役員 専務	ITソリューション事業本部長	大田 亨	昭和31年2月27日生	昭和53年3月 株式会社事務計算センター(現 日本 システムウェア株式会社)入社 平成19年4月 当社執行役員就任 当社エンベデッドテクノロジー事業 本部長委嘱 平成20年4月 当社執行役員常務就任 平成20年10月 当社プロダクトソリューション事業 本部長委嘱 平成21年6月 当社取締役執行役員常務就任 平成22年4月 京石刻恩信息技术(北京)有限公司董 事長 平成25年6月 当社プロダクトソリューション事業 本部長・事業戦略室担当委嘱 平成27年4月 当社取締役執行役員専務就任(現任) 当社ITソリューション事業本部長 委嘱(現任) 平成27年11月 NSWテクノサービス株式会社取締 役就任	(注)3	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員 常務	プロダクトソ リューション事業 本部長	小 関 誠 一	昭和32年12月14日生	昭和54年3月 株式会社事務計算センター(現 日本 システムウェア株式会社)入社 平成12年4月 当社ハードウェア事業本部副事業本 部長兼第一営業部長委嘱 平成13年4月 当社執行役員就任 平成15年4月 当社営業本部副本部長兼第四営業部 長委嘱 平成16年4月 当社システムロジックテクノロジー 事業本部副事業本部長委嘱 平成19年4月 当社システムロジックテクノロジー 事業本部副事業本部長兼営業統括部 長委嘱 平成20年10月 当社プロダクトソリューション事業 本部副事業本部長委嘱 平成21年4月 当社執行役員就任 当社プロダクトソリューション事業 本部副事業本部長兼営業統括部長委 嘱 平成24年4月 当社執行役員常務就任 平成27年4月 当社プロダクトソリューション事業 本部長兼営業統括部長委嘱 平成27年6月 当社取締役執行役員常務就任(現任) 平成27年11月 N S Wテクノサービス株式会社取締 役就任 平成28年4月 当社プロダクトソリューション事業 本部長委嘱(現任)	(注) 3	5
取締役 (監査等 委員)	—	飯 郷 直 行	昭和30年6月23日生	昭和53年4月 日本電気株式会社入社 平成16年4月 同社第一システム事業本部医療シス テム開発事業部統括マネージャー就 任 平成21年10月 同社公共・医療ソリューション事業 本部医療ソリューション事業部長代 理就任 平成22年4月 当社執行役員就任 I Tソリューション事業本部長委嘱 平成23年4月 当社執行役員常務就任 平成24年6月 当社取締役執行役員常務就任 平成27年4月 当社顧問就任 平成27年6月 当社常勤監査役就任 平成28年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注) 4	1
取締役 (監査等 委員)	—	小谷野 幹 雄	昭和36年6月20日生	昭和60年4月 大和証券株式会社入社 昭和63年8月 公認会計士登録 平成8年9月 小谷野公認会計士事務所開設 平成15年6月 当社監査役就任 平成20年6月 当社取締役就任 平成28年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注) 4	—
取締役 (監査等 委員)	—	鹿 島 浩之助	昭和21年1月30日生	昭和44年4月 日本電気株式会社入社 平成10年10月 同社C & Cシステム事業企画部長就 任 平成12年4月 同社執行役員就任、NECソリュー ションズ企画室長委嘱 平成14年10月 同社執行役員常務就任 平成15年4月 同社経営企画部長委嘱 平成16年4月 同社執行役員常務 平成16年6月 同社取締役常務就任 平成17年3月 同社取締役執行役員常務就任 平成19年4月 同社取締役執行役員専務就任 平成21年6月 同社常勤監査役就任 平成25年6月 当社取締役就任 平成28年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注) 4	—
計						1,866

- (注) 1 平成28年6月28日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社へ移行しました。
- 2 取締役 小谷野幹雄、鹿島浩之助の両氏は、監査等委員である社外取締役であります。
- 3 監査等委員以外の取締役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査等委員会は、委員長飯郷直行、委員小谷野幹雄、委員鹿島浩之助の3名で構成されております。
- 6 代表取締役執行役員社長 多田尚二は、取締役会長 多田修人の次男であります。
- 7 当社では、取締役会で決定した経営方針に基づく業務執行機能の強化と責任体制の明確化を図るため、執行役員制度を導入しております。
- 執行役員は、取締役が兼務する執行役員4名(多田尚二、桑原公生、大田亨、小関誠一)と、執行役員8名(板山可成、小山文雄、衛藤純二、西郷正宏、鈴木晴雄、山口真吾、中山寿人、杉浦公一)であります。
- 8 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。
- 補欠の監査等委員である取締役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
木村 智行	昭和51年12月22日生	平成13年5月	有限会社木村経営研究所(現 有限会社木村会計事務所)入社	—
		平成18年1月	木村会計事務所(現 税理士法人KMCパートナーズ)入所	
		平成18年3月	税理士登録	
		平成19年7月	税理士法人KMCパートナーズ代表就任(現任)	
		平成23年5月	有限会社木村会計事務所代表取締役就任(現任)	

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

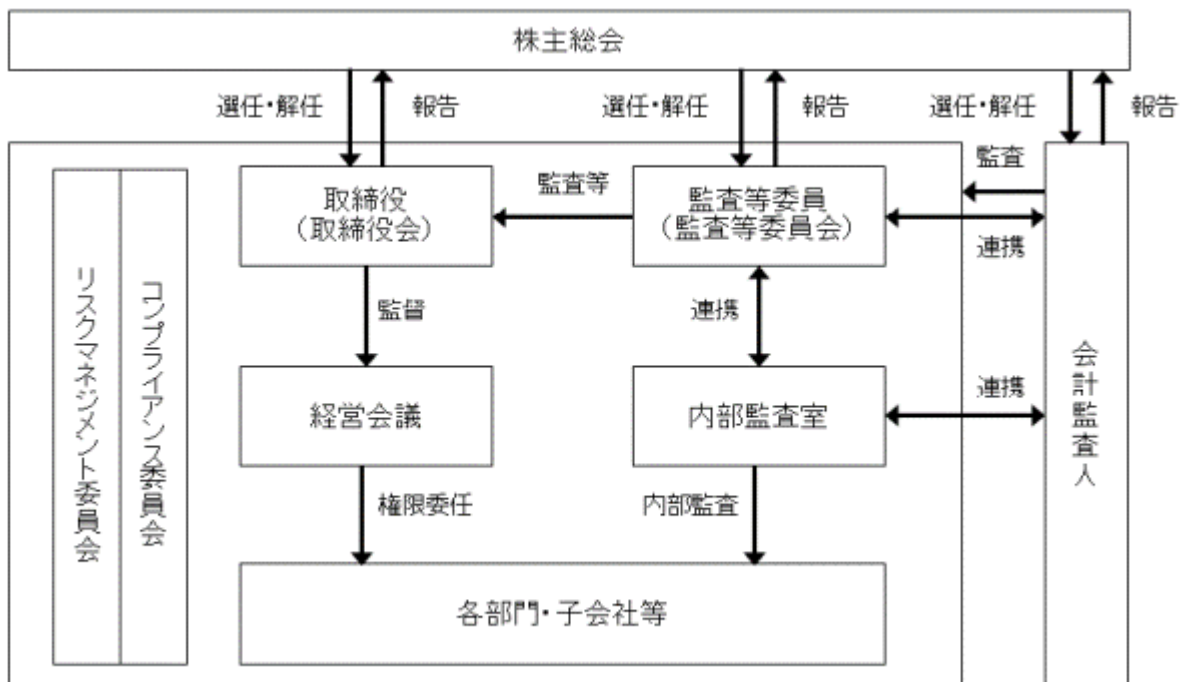
(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、迅速かつ的確な意思決定を行うこと、並びに経営の透明性と健全性を確保することが、企業としての重要課題であると認識し、取締役会構成員数の適正化、執行役員制度の導入、社外取締役の選任等、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

当社は、従来監査役会設置会社でしたが、平成28年6月28日開催の第50回定時株主総会の決議に基づき監査等委員会設置会社に移行いたしました。監査等委員会設置会社への移行により、取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員とすることにより、取締役会の監督機能を強化し、より一層のコーポレート・ガバナンスの充実を図ります。

① コーポレート・ガバナンスの体制

当社は、取締役会・取締役の監査・監督機能の充実を図るため、監査等委員会設置会社制度を採用し、会社の機関として、株主総会、取締役会、監査等委員会、経営会議を設置しております。



イ. 取締役会

取締役会は取締役8名（うち監査等委員である取締役3名）で構成されており、うち2名が社外取締役（いずれも監査等委員である取締役）です。定期的を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令で定められた事項や会社の重要な事項等の意思決定及び業務執行の監督を行っております。

ロ. 監査等委員会

監査等委員会は社外取締役2名を含む3名で構成されています。監査等委員は、監査等委員会が定めた監査方針及び監査計画に基づき、取締役の職務執行を含む経営の日常的活動の監査等を行うほか、取締役会、経営会議をはじめとする社内の重要会議に出席し、監査等委員の立場から意見を述べるとともに、厳正な監視を行っております。

ハ. 経営会議

経営会議は、常勤取締役、執行役員で構成されています。原則として毎週1回開催し、取締役会専決事項以外の重要項目につき方針決定し、意思決定の迅速化と業務執行の効率化を図っております。

ニ. 内部監査室

当社は、内部監査部門として業務執行部門から独立した4名の専任者からなる内部監査室を設置しております。内部監査の種類は、組織及び制度監査、内部統制監査、テーマ別監査であり、これらの監査実施においては社長承認を得て、定期もしくは臨時に監査し、社長への結果報告、被監査部門への改善勧告を行っております。また、改善状況についてはフォローアップ監査により、その進捗状況をチェックしております。

ホ. 会計監査人

当連結会計年度において当社の会計監査業務を執行した公認会計士及び会計監査業務に係る補助者は、次のとおりであります。

ア. 業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名、並びに継続監査年数

川崎 浩	仰星監査法人	6年
鈴木 誠	仰星監査法人	3年

イ. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士	7名
その他	1名

ヘ. コンプライアンス委員会

当社は、社長直属の機関として、常勤取締役（監査等委員である取締役を含む）、事業本部長及び本社室部長により構成されるコンプライアンス委員会を設置しております。原則として、四半期に1回以上開催するほか、必要に応じて開催し、当社及び当社に勤務する者による違法行為を未然に防止するとともに、経営の健全性を高めるための内部管理体制の整備及び維持を図っております。また、必要あるときは適宜、社外取締役、弁護士、会計監査人及び税理士等に相談を行い、管理体制の強化を図っております。

ト. リスクマネジメント委員会

当社は、リスク防止に関する方針及び対策等を審議する機関としてリスクマネジメント委員会を設置しております。主として、経営リスク、法令リスク、情報セキュリティリスク及び災害リスクの適正な管理のため、これらのリスク毎に管理責任者を定め、リスク管理のための体制を整備しております。

② 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を次のとおり定めております。

イ. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- コンプライアンス体制の基礎として、取締役、執行役員及び使用人の行動規範となる倫理憲章を定め、取締役、執行役員及び使用人全員に周知徹底し、かつ遵守させる。
- コンプライアンス業務を担当する部門として、総務人事部長を長とするコンプライアンス室を設置し、コンプライアンス委員会の監督の下、社内規則及びガイドラインの策定、教育訓練の実施、並びに社内通報・報告体制の整備その他コンプライアンス業務を行わせる。コンプライアンス室はコンプライアンス業務について、定期的にコンプライアンス委員会に報告する。
- コンプライアンスの実行を監査するための内部監査部門として、執行部門から独立した内部監査室を設置する。内部監査室は、コンプライアンスの状況を監査し、コンプライアンス委員会に報告する。
- 取締役、執行役員、使用人及び内部監査室は、法令違反その他コンプライアンスに関する重大な事実を発見した場合には、直ちにコンプライアンス委員会に報告する。
- 監査等委員会はコンプライアンス体制に問題があると認めるときは、コンプライアンス委員会に対して改善を求める。この場合、コンプライアンス委員会は、改善の必要があると認めた場合は、速やかにコンプライアンス室に対してコンプライアンス体制の改善策の策定を指示する。
- 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力との関係を一切遮断することを目的とし、反社会的勢力への対応を所管する部門を総務人事部と定めるとともに、事案発生時の報告及び対応に係る規程等の整備を行い、反社会的勢力には警察等関連機関と連携し毅然とした態度で対応する。

ロ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、文書管理規程に基づき、網羅的に、かつ検索性の高い状態で保存及び管理し、取締役は、文書管理規程により、これらを常時閲覧できるものとする。

ハ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- a. リスク管理を統括する機関として経営会議、リスクマネジメント委員会、コンプライアンス委員会を設置し、リスク管理のための体制を整備する。
- b. 経営リスク(ビジネスリスク)、法令リスク(コンプライアンスリスク)、情報セキュリティリスク(ITリスク)及び災害リスク(ハザードリスク)の適正な管理のため、これらのリスク毎に管理責任者を定めるとともに、取締役会規程、執行役員規程、経営会議規程、リスクマネジメント委員会規程、コンプライアンス委員会規程、情報システム管理規程及び防災管理規程を定め、これらの規程に従ったリスク管理体制を構築する。
- c. 不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置し、同本部が中心となって迅速に対応し、リスク及び損害の拡大を防止しこれを最小限に止める体制を整える。

ニ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- a. 経営方針及び経営戦略に関わる重要事項のうち、取締役会で決議すべきものは、取締役会規程に明定し、かかる事項を審議・決定する。また、必要に応じて臨時の取締役会を開催する。さらに、取締役会規程に定めたものに準ずる重要事項を審議・決定するために、経営会議を随時開催する。
- b. 取締役会又は経営会議の決定に基づく業務執行については、取締役会規程、執行役員規程、組織規程、職務権限規程及び業務分掌規程において、業務執行部門における責任者及び責任内容、並びに執行手続の詳細を定める。

ホ. 当社及びその子会社からなる企業集団(以下、「当社グループ」という。)における業務の適正を確保するための体制

- a. 当社は、子会社へ倫理憲章の周知徹底を図るとともに、主要な子会社にはコンプライアンスに関する推進責任者を配置し、緊密な連携の下、当社グループ全体の業務の適正の確保に努める。
- b. 当社は、子会社の自主性及び独立性を尊重しつつ、当社グループにおける職務分掌、権限及び意思決定その他の組織に関する基準を定め、子会社にこれに準拠した体制を構築する。
- c. 当社は、関係会社管理規程に従い決裁・報告制度を運用するとともに、関係会社会議等により子会社の経営を適正に管理するものとし、必要に応じて経営のモニタリングを行う。取締役、内部監査室は、子会社の法令違反その他コンプライアンス、リスクに関する重大な事実を発見した場合、コンプライアンス委員会またはリスクマネジメント委員会に報告する。
- d. 子会社は、当社からの経営管理、経営指導内容が法令に違反しその他コンプライアンスまたはリスク管理上問題があると認めた場合は、コンプライアンス委員会またはリスクマネジメント委員会に報告する。

ヘ. 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- a. 監査等委員会の求めがあったときは、監査等委員の職務を補助すべき使用人として、使用人から監査等委員補助者を任命する。
- b. 監査等委員会は、監査等委員補助者の人事異動・人事評価等について、事前に総務人事部長より報告を受けるとともに、必要ある場合は、理由を付して人事異動・人事評価等につき変更を総務人事部長に申し入れることができる。総務人事部長は、監査等委員会の意見を尊重しなければならない。
- c. 監査等委員補助者は業務の執行にかかる役職を兼務しない。

ト. 取締役（監査等委員である取締役を除く）及び使用人の監査等委員会への報告、その他の監査等委員会への報告に関する体制

- a. 当社グループの取締役、執行役員及び使用人は、当社グループに著しい損害を及ぼす、または当社グループの信用を著しく失墜させるおそれがある事態の発生、内部管理体制の重大な欠陥及び法令違反等の不正行為等を認めた場合及び報告を受けた場合は、書面もしくは口頭にて遅滞なく監査等委員に直接報告する。この場合、報告者に対し当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。
- b. 内部監査室は、少なくとも1ヶ月に1度は、監査状況について、監査等委員会に報告する。
- c. 監査等委員は必要に応じ、いつでも取締役、執行役員または使用人に報告を求めることができ、取締役、執行役員または使用人は、速やかに求められた事項を報告しなければならない。

チ. 監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- a. 監査等委員は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するために、取締役会のほか、経営会議、部門長報告会等の会議に出席するとともに、業務執行に関する文書を閲覧し、必要に応じて取締役、執行役員または使用人に報告を求めることができる。
- b. 監査等委員会は、必要があると認めるときは、コンプライアンス委員会またはコンプライアンス室に対し改善策の策定を求め、内部監査室に対し監査の実施状況の報告及び追加監査の実施を求めることができる。
- c. 監査等委員会は、内部監査室に対して、必要に応じて監査業務への協力を求めることができる。
- d. 監査等委員会は、代表取締役、コンプライアンス委員会委員長及び会計監査人とそれぞれ定期的に意見交換をする。
- e. 監査等委員が職務を執行する上で必要な費用の請求をしたときは、担当部署において審議の上、速やかに当該費用または債務を処理する。

③ 内部監査、監査等委員会の監査及び会計監査の相互連携、並びに内部統制部門との連携

当社は、内部監査室長、監査等委員、会計監査人及び内部統制に係わる業務執行役員で構成される監査人連絡会を定期的に開催し、内部監査、監査等委員会の監査及び会計監査の相互連携、並びに内部統制部門との連携を図っております。また、各々の監査計画と結果については、情報共有、意思疎通を図り、効率的で実効性のある監査を実施しております。

④ 社外取締役と提出会社の人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係

当社は、経営監視機能の充実に図り、透明性と健全性の高い経営体制を構築するため、社外取締役2名（いずれも監査等委員である取締役）を選任しております。選任にあたっては、東京証券取引所が定める独立性の基準を参考に、経歴や当社との関係から個別に判断し、当社からの独立性を確保できる者を選任しております。

社外取締役小谷野幹雄氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する専門知識と経験に基づき、業務執行者から独立した立場により客観的かつ専門的な視点から意思決定の過程において重要な役割を果たしております。その他、ゼビオホールディングス株式会社並びに当該会社の子会社株式会社ヴィクトリアの社外監査役、及び積水ハウス・SIレジデンシャル投資法人の監査役員を兼務しておりますが、当社と兼職先との間に特別な利害関係はありません。

社外取締役鹿島浩之助氏は、企業経営者としての豊富な経験、幅広い知見を有しており、業務執行者から独立した立場により客観的かつ専門的な視点から意思決定の過程において重要な役割を果たしております。なお、同氏は当社と取引関係のある日本電気株式会社の取締役、監査役等の重職を歴任されておりましたが、すでに退任されており、現在、当社と同氏の間には特別な利害関係はありません。

⑤ 役員報酬等の内容

- イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数
 当社の当事業年度に係る役員報酬等の内容は、次のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	73,915	73,665	250	5
監査役 (社外監査役を除く。)	10,100	10,050	50	2
社外役員	29,350	29,150	200	5

- (注) 1 取締役の報酬限度額は、平成20年6月27日開催の第42回定時株主総会において、年額200,000千円以内と決議しております。
 2 監査役の報酬限度額は、平成20年6月27日開催の第42回定時株主総会において、年額40,000千円以内と決議しております。
 3 賞与は、創業50年記念に伴う一時金であります。
 4 上記支給額のほか、平成19年6月28日開催の定時株主総会の決議に基づき、役員退職慰労金を当事業年度中に退任した社外監査役1名に対して3,179千円支給しております。

ロ. 報酬等の決定に関する方針

取締役の報酬等については、株主総会の決議により、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役を区分して報酬限度を決定しております。

取締役の報酬等は、職務、資格等を勘案して算定しており、賞与は支給しておりません（創業50年記念に伴う一時金を除く）。監査等委員の報酬等は、監査等委員会の協議にて算定しており、賞与は支給しておりません。

なお、当社は、平成19年6月28日開催の第41回定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止いたしました。

⑥ 責任限定契約の内容

当社は、社外取締役全員との間に会社法第427条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は、法令に規定する額であります。

⑦ 剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主の皆様への機動的な利益還元を行うため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めております。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）は10名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

⑨ 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑩ 自己の株式の取得の決定機関

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会決議によって自己の株式を取得できる旨を定款に定めております。

⑪ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑫ 利益相反取引の決議機関

当社は、当社と当社取締役との間で利益相反のおそれがある取引を行う場合、取引内容及び条件の妥当性について当該取締役を除く取締役会で決議することにより、取引の公正性を確保しております。

⑬ 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

支配株主との取引につきましては、一般の取引条件と同様の適切な条件とすることを基本方針とし、取引内容及び条件の妥当性について、取締役会等の社内意思決定機関において審議の上、決定し、会社ひいては少数株主を害することのないよう適切に対応しております。

⑭ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
10銘柄 104,997千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

a. 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱大和証券グループ本社	50,000	47,300	同社との取引関係の維持・強化のため
日本電気㈱	30,318	10,702	同社グループとの取引関係の維持・強化のため
㈱みずほフィナンシャルグループ	44,400	9,372	同社との取引関係の維持・強化のため
第一生命保険㈱	1,400	2,443	同社との取引関係の維持・強化のため

(注) 上記銘柄は貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位30銘柄に該当するため記載しております。

b. みなし保有株式

該当事項はありません。

当事業年度

a. 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱大和証券グループ本社	50,000	34,615	同社との取引関係の維持・強化のため
日本電気㈱	30,318	8,579	同社グループとの取引関係の維持・強化のため
㈱みずほフィナンシャルグループ	44,400	7,463	同社との取引関係の維持・強化のため
第一生命保険㈱	1,400	1,907	同社との取引関係の維持・強化のため

(注) 上記銘柄は貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位30銘柄に該当するため記載しております。

b. みなし保有株式

該当事項はありません。

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	22,000	100	22,000	100
連結子会社	—	—	—	—
計	22,000	100	22,000	100

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

再生可能エネルギー促進賦課金減免申請業務。

当連結会計年度

再生可能エネルギー促進賦課金減免申請業務。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針として、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。なお、監査等委員会設置会社へ移行後は、監査等委員会の同意を得て決定いたします。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けている明和監査法人は、平成26年7月1日をもって仰星監査法人と合併し、名称を仰星監査法人に変更しております。臨時報告書に記載した事項は次の通りであります。

- (1) 当該異動に係る監査公認会計士等の名称
 (1) 当該異動に係る監査公認会計士等の名称

①存続する監査公認会計士等の概要

名称	仰星監査法人
所在地	東京都千代田区九段南3-3-6 麴町ビル2階

②消滅する監査公認会計士等の概要

名称	明和監査法人
所在地	東京都中央区銀座5-15-1 南海東京ビル

- (2) 当該異動の年月日
平成26年7月1日
- (3) 消滅する監査公認会計士等の直近における就任年月日
平成26年6月26日
- (4) 消滅する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等又は内部統制報告書における意見等に関する事項
該当事項はありません。
- (5) 当該異動の決定又は当該異動に至った理由及び経緯
当社の会計監査人である明和監査法人(消滅法人)が平成26年7月1日付で、仰星監査法人(存続法人)と合併したことに伴うものであります。これに伴いまして、当社の監査証明を行う監査公認会計士等は仰星監査法人となります。
- (6) 上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等又は内部統制監査報告書の記載事項に係る消滅する監査公認会計士等の意見
特段の意見はないとの申し出を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入及び会計基準設定主体等の行う研修への参加等を通じて、最新の会計基準等及び改正会計基準等に関する情報を適宜収集、把握し、的確に対応することができる体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,516,189	3,557,361
受取手形及び売掛金	7,284,336	7,216,516
商品	306,551	201,810
仕掛品	※1 707,310	※1 723,042
貯蔵品	3,288	2,992
繰延税金資産	376,004	410,467
その他	203,767	191,126
貸倒引当金	△706	—
流動資産合計	11,396,742	12,303,317
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,894,217	2,752,145
工具、器具及び備品（純額）	388,273	385,998
土地	3,861,051	3,861,051
その他（純額）	1,992	5,548
有形固定資産合計	※2 7,145,535	※2 7,004,744
無形固定資産		
ソフトウェア	92,213	77,429
その他	19,025	18,655
無形固定資産合計	111,239	96,085
投資その他の資産		
投資有価証券	104,662	104,997
繰延税金資産	553,630	564,439
その他	935,991	963,471
貸倒引当金	△18,562	△18,562
投資その他の資産合計	1,575,722	1,614,345
固定資産合計	8,832,497	8,715,174
資産合計	20,229,239	21,018,492

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,993,356	1,946,117
リース債務	21,587	—
未払法人税等	520,258	576,836
未払消費税等	642,466	259,272
賞与引当金	778,099	884,305
工事損失引当金	※1 20,231	※1 14,283
その他	925,337	1,007,956
流動負債合計	4,901,336	4,688,772
固定負債		
リース債務	1,569	—
役員退職慰労引当金	313,241	310,062
退職給付に係る負債	1,712,161	1,834,634
資産除去債務	14,799	33,215
固定負債合計	2,041,771	2,177,911
負債合計	6,943,108	6,866,684
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500,000	5,500,000
資本剰余金	86,080	86,080
利益剰余金	7,644,999	8,533,472
自己株式	△107	△145
株主資本合計	13,230,971	14,119,406
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,283	19,319
為替換算調整勘定	28,590	25,212
退職給付に係る調整累計額	△4,714	△12,130
その他の包括利益累計額合計	55,159	32,401
非支配株主持分	—	—
純資産合計	13,286,131	14,151,808
負債純資産合計	20,229,239	21,018,492

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)
売上高	28,163,795	29,943,272
売上原価	※1, ※2, ※3 23,304,911	※1, ※2, ※3 24,878,426
売上総利益	4,858,883	5,064,846
販売費及び一般管理費		
役員報酬	152,610	135,570
執行役員報酬	89,925	82,312
給料及び賞与	1,536,376	1,448,287
退職給付費用	128,451	82,254
福利厚生費	256,401	277,131
通信交通費	139,735	146,433
業務委託費	154,249	164,254
賃借料	118,757	116,465
その他	515,411	591,759
販売費及び一般管理費合計	※3 3,091,917	※3 3,044,468
営業利益	1,766,965	2,020,377
営業外収益		
受取利息	104	219
受取配当金	2,010	2,154
受取手数料	6,665	6,532
受取賃貸料	7,062	7,062
受取保険金	2,500	10,000
保険返戻金	29,184	—
助成金収入	9,480	10,318
その他	53,589	15,088
営業外収益合計	110,596	51,375
営業外費用		
支払利息	7,215	0
債権売却損	1,172	2,665
為替差損	1,783	4,096
その他	1,050	33
営業外費用合計	11,221	6,797
経常利益	1,866,340	2,064,956
特別利益		
固定資産売却益	—	※4 13
特別利益合計	—	13
特別損失		
固定資産除却損	※5 5,013	※5 9,492
固定資産売却損	※6 914	—
減損損失	—	899
特別損失合計	5,928	10,392
税金等調整前当期純利益	1,860,411	2,054,577
法人税、住民税及び事業税	788,378	867,038
法人税等調整額	55,172	△36,180
法人税等合計	843,550	830,858
当期純利益	1,016,860	1,223,718
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,016,860	1,223,718

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益	1,016,860	1,223,718
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,619	△11,963
為替換算調整勘定	12,110	△3,377
退職給付に係る調整額	△4,714	△7,415
その他の包括利益合計	※1 11,015	※1 △22,757
包括利益	1,027,876	1,200,960
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,027,876	1,200,960
非支配株主に係る包括利益	—	—

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,500,000	86,080	6,975,635	△107	12,561,607
会計方針の変更による 累積的影響額			△123,999		△123,999
会計方針の変更を反映した 当期首残高	5,500,000	86,080	6,851,636	△107	12,437,608
当期変動額					
剰余金の配当			△223,497		△223,497
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,016,860		1,016,860
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	793,363	—	793,363
当期末残高	5,500,000	86,080	7,644,999	△107	13,230,971

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	27,663	16,479	—	44,143	12,605,751
会計方針の変更による 累積的影響額					△123,999
会計方針の変更を反映した 当期首残高	27,663	16,479	—	44,143	12,481,751
当期変動額					
剰余金の配当					△223,497
親会社株主に帰属する 当期純利益					1,016,860
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	3,619	12,110	△4,714	11,015	11,015
当期変動額合計	3,619	12,110	△4,714	11,015	804,379
当期末残高	31,283	28,590	△4,714	55,159	13,286,131

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,500,000	86,080	7,644,999	△107	13,230,971
当期変動額					
剰余金の配当			△335,245		△335,245
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,223,718		1,223,718
自己株式の取得				△38	△38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	888,472	△38	888,434
当期末残高	5,500,000	86,080	8,533,472	△145	14,119,406

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	31,283	28,590	△4,714	55,159	13,286,131
当期変動額					
剰余金の配当					△335,245
親会社株主に帰属する 当期純利益					1,223,718
自己株式の取得					△38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△11,963	△3,377	△7,415	△22,757	△22,757
当期変動額合計	△11,963	△3,377	△7,415	△22,757	865,677
当期末残高	19,319	25,212	△12,130	32,401	14,151,808

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,860,411	2,054,577
減価償却費	459,376	477,215
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△27,439	△706
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△639	106,206
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	7,698	△5,947
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	101,588	111,260
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	△3,179
受取利息及び受取配当金	△2,114	△2,373
支払利息	7,215	0
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	△89	—
固定資産売却損益 (△は益)	914	△13
固定資産除却損	5,013	9,492
売上債権の増減額 (△は増加)	△834,956	68,491
たな卸資産の増減額 (△は増加)	132,641	89,305
仕入債務の増減額 (△は減少)	51,600	△47,338
未払消費税等の増減額 (△は減少)	505,648	△383,193
その他	108,230	64,044
小計	2,375,098	2,537,843
利息及び配当金の受取額	2,114	2,373
利息の支払額	△6,938	△0
法人税等の支払額	△775,391	△842,915
その他	—	8,789
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,594,883	1,706,090
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△126,727	△250,392
有形固定資産の売却による収入	80,801	22,767
無形固定資産の取得による支出	△21,877	△20,081
投資有価証券の取得による支出	△3,652	△18,291
投資有価証券の売却による収入	△360	—
敷金及び保証金の差入による支出	△13,083	△2,439
敷金及び保証金の回収による収入	16,638	1,934
保険積立金の積立による支出	—	△8,596
保険積立金の払戻による収入	108,397	—
その他	△19,052	△28,149
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,086	△303,247
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,110,502	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△82,451	△23,156
配当金の支払額	△223,178	△335,098
その他	—	△38
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,416,132	△358,293
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,110	△3,377
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	211,948	1,041,171
現金及び現金同等物の期首残高	2,304,241	2,516,189
現金及び現金同等物の期末残高	※1 2,516,189	※1 3,557,361

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3 社

連結子会社の名称

NSWテクノサービス株式会社

京石刻恩信息技术(北京)有限公司

NSWウィズ株式会社

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち京石刻恩信息技术(北京)有限公司の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日までの期間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

3 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

商品…… 個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

仕掛品…… 個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品…… 総平均法による原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)、及び、アウトソーシング事業に関連する建物附属設備、工具、器具及び備品については、定額法によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	6～50年
車両運搬具	5～7年
工具、器具及び備品	5～20年

- ② 無形固定資産(リース資産を除く)
定額法によっております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- ③ リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- ④ 長期前払費用
均等償却しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金
従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計期間に対応する額を計上しております。
- ③ 役員退職慰労引当金
役員退職慰労金制度は、平成19年5月17日開催の取締役会において、平成19年6月28日をもって廃止することを決議したことにより、制度廃止日以降繰入を実施しておりません。従って、当連結会計年度末における役員退職慰労引当金残高は、当該決議以前から就任している役員に対する平成19年6月28日時点における要支給額であります。
- ④ 工事損失引当金
受注制作のソフトウェア開発のうち、当連結会計年度末において工事損失の発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)で定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価の計上基準
- ① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準(工事の進捗度の見積りは原価比例法)
- ② その他の工事
工事完成基準
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
在外子会社の資産および負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。なお、控除対象外消費税及び地方消費税については、当連結会計年度の費用として処理しております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。）、及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。）等を当連結会計年度から適用し、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については連結財務諸表の組替えを行っております。

(未適用の会計基準)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）

(1) 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

- ①（分類1）から（分類5）に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い
- ②（分類2）及び（分類3）に係る分類の要件
- ③（分類2）に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い
- ④（分類3）に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い
- ⑤（分類4）に係る分類の要件を満たす企業が（分類2）又は（分類3）に該当する場合の取扱い

(2) 適用予定日

平成29年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「貸倒引当金戻入額」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。また、前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保険金」及び「助成金収入」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「貸倒引当金戻入額」27,439千円、「その他」38,129千円は、「受取保険金」2,500千円、「助成金収入」9,480千円、「その他」53,589円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「投資有価証券の取得による支出」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△22,704千円は、「投資有価証券の取得による支出」△3,652千円、「その他」△19,052千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産及び工事損失引当金の表示

損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。
工事損失引当金に対応するたな卸資産の額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
仕掛品	21,819千円	153,057千円

※2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
	5,248,431千円	5,508,854千円

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は、収益性の低下に基づく簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
	26,731千円	84,520千円

※2 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
	20,231千円	8,727千円

※3 販売費及び一般管理費並びに当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
一般管理費	101,838千円	54,585千円
当期製造費用	331,892千円	411,566千円
計	433,731千円	466,152千円

※4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物及び構築物	一千円	13千円

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物及び構築物	4,635千円	2,000千円
工具、器具及び備品	203千円	6,664千円
ソフトウェア	174千円	827千円
計	5,013千円	9,492千円

※6 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物及び構築物	914千円	一千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	4,150千円	△17,956千円
組替調整額	一千円	一千円
税効果調整前	4,150千円	△17,956千円
税効果額	530千円	△5,992千円
その他有価証券評価差額金	3,619千円	△11,963千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	12,110千円	△3,377千円
組替調整額	一千円	一千円
税効果調整前	12,110千円	△3,377千円
税効果額	一千円	一千円
為替換算調整勘定	12,110千円	△3,377千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△6,968千円	△11,212千円
組替調整額	一千円	696千円
税効果調整前	△6,968千円	△10,515千円
税効果額	△2,253千円	△3,100千円
退職給付に係る調整額	△4,714千円	△7,415千円
その他の包括利益合計	11,015千円	△22,757千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,900,000	—	—	14,900,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	192	—	—	192

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	111,748	7.50	平成26年3月31日	平成26年6月27日
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	111,748	7.50	平成26年9月30日	平成26年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	111,748	7.50	平成27年3月31日	平成27年6月26日

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,900,000	—	—	14,900,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	192	38	—	230

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 38株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年5月12日 取締役会	普通株式	111,748	7.50	平成27年3月31日	平成27年6月26日
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	223,497	15.00	平成27年9月30日	平成27年12月2日

(注) 1株当たり配当額15.00円には、創業50年記念配当7.50円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	223,496	15.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(注) 1株当たり配当額15.00円には、創業50年記念配当7.50円を含んでおります。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	2,516,189千円	3,557,361千円
現金及び現金同等物	2,516,189千円	3,557,361千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア)有形固定資産

アウトソーシング事業に関連する工具、器具及び備品であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

工具、器具及び備品

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
取得価額相当額	549,063千円	一千円
減価償却累計額相当額	548,264千円	一千円
期末残高相当額	799千円	一千円

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
1年以内	799千円	一千円
1年超	一千円	一千円
合計	799千円	一千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
支払リース料	42,533千円	199千円
減価償却費相当額	42,533千円	199千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引等の投機的取引は一切行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を毎年度末及び異常な兆候発見時に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格変動リスクに晒されておりますが、業務上の関係を有する企業の株式のみであり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち、22.3%が日本電気(株)グループに対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの及び重要性が乏しいものは、次表には含まれておりません。(注)2参照)。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,516,189	2,516,189	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,284,336	7,284,336	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	69,818	69,818	—
資産計	9,870,345	9,870,345	—
(1) 買掛金	1,993,356	1,993,356	—
負債計	1,993,356	1,993,356	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

<資産>

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

<負債>

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	34,843

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内(千円)
受取手形及び売掛金	7,284,336

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引等の投機的取引は一切行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を毎年度末及び異常な兆候発見時に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格変動リスクに晒されておりますが、業務上の関係を有する企業の株式のみであり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち、22.4%が日本電気(株)グループに対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの及び重要性が乏しいものは、次表には含まれておりません。(注)2参照)。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,557,361	3,557,361	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,216,516	7,216,516	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	52,566	52,566	—
資産計	10,826,444	10,826,444	—
(1) 買掛金	1,946,117	1,946,117	—
負債計	1,946,117	1,946,117	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

<資産>

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

<負債>

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	52,431

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内(千円)
受取手形及び売掛金	7,216,516

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成27年3月31日)

1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	69,818	29,239	40,579
(2) その他	—	—	—
小計	69,818	29,239	40,579
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	—	—	—
(2) その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	69,818	29,239	40,579

当連結会計年度(平成28年3月31日)

1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	50,658	27,279	23,379
(2) その他	—	—	—
小計	50,658	27,279	23,379
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	1,907	1,960	△52
(2) その他	—	—	—
小計	1,907	1,960	△52
合計	52,566	29,239	23,326

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成27年3月31日)

記載事項はありません。

当連結会計年度(平成28年3月31日)

記載事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、職能を基準とした一時金制度（非積立型）と勤続を基準とした確定拠出年金制度の併用型の退職金制度を設けており、そのほかに情報サービス産業界の総合設立型厚生年金基金を採用しております。総合設立型厚生年金基金については、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。また、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を含む）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,410,939千円	1,712,161千円
会計方針の変更による累積的影響額	192,665千円	一千円
会計方針の変更を反映した期首残高	1,603,604千円	1,712,161千円
勤務費用	184,932千円	188,617千円
利息費用	12,083千円	12,908千円
数理計算上の差異の発生額	6,968千円	11,212千円
退職給付の支払額	△95,427千円	△90,265千円
退職給付債務の期末残高	1,712,161千円	1,834,634千円

(2) 退職給付債務と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	1,712,161千円	1,834,634千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,712,161千円	1,834,634千円
退職給付に係る負債	1,712,161千円	1,834,634千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,712,161千円	1,834,634千円

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
勤務費用	184,932千円	169,489千円
利息費用	12,083千円	12,908千円
数理計算上の差異の費用処理額	一千円	696千円
確定給付制度に係る退職給付費用	197,015千円	183,095千円

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
数理計算上の差異	△6,968千円	△10,515千円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△6,968千円	△17,484千円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
割引率	0.8%	0.8%

3. 確定拠出制度

確定拠出制度（確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度を含む。）への要拠出額は、前連結会計年度476,106千円、当連結会計年度327,976千円であります。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は以下のとおりであります。

(1) 制度全体の直近の積立に関する事項

	前連結会計年度 平成26年3月31日現在	当連結会計年度 平成27年3月31日現在
年金資産の額	636,261,314千円	744,963,870千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	648,005,851千円	737,816,144千円
差引額	△11,744,536千円	7,147,726千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 1.34%（平成26年3月分掛金拠出額）

当連結会計年度 1.38%（平成27年3月分掛金拠出額）

(3) 補足説明

上記(1)の差引額的主要な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高（前連結会計年度113,788千円、当連結会計年度88,702千円）、繰越不足金（前連結会計年度11,630,748千円、当連結会計年度一千円）及び別途積立金（前連結会計年度一千円、当連結会計年度7,236,428千円）であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
(1) 流動の部		
繰延税金資産		
売上原価	15,164千円	37,989千円
貸倒引当金	8千円	1,712千円
賞与引当金等	296,368千円	306,089千円
未払事業税等	48,638千円	54,469千円
工事損失引当金	6,696千円	2,693千円
繰越欠損金	397千円	一千円
その他	8,729千円	7,514千円
繰延税金資産合計	376,004千円	410,467千円
繰延税金資産の純額	376,004千円	410,467千円
(2) 固定の部		
繰延税金資産		
貸倒引当金	4,209千円	3,985千円
減損損失	419,009千円	394,831千円
投資有価証券評価損	27,524千円	26,060千円
退職給付に係る負債	551,846千円	556,847千円
役員退職慰労引当金	101,302千円	94,941千円
繰越欠損金	925千円	526千円
その他	9,210千円	17,122千円
繰延税金資産小計	1,114,027千円	1,094,315千円
評価性引当額	△539,227千円	△515,213千円
繰延税金資産合計	574,800千円	579,101千円
繰延税金負債との相殺	△21,170千円	△14,661千円
繰延税金資産の純額	553,630千円	564,439千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	9,295千円	3,302千円
在外子会社留保利益	9,275千円	7,009千円
資産除去債務に対応する費用	2,598千円	4,349千円
繰延税金負債合計	21,170千円	14,661千円
繰延税金資産との相殺	△21,170千円	△14,661千円
繰延税金負債の純額	一千円	一千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率 (調整)	35.6%	33.1%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.5%	0.4%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	△0.0%	△0.0%
住民税均等割等	1.0%	0.9%
留保金課税	3.7%	2.3%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	4.6%	2.9%
評価性引当額の増減	△0.1%	0.2%
その他	△0.0%	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	45.3%	40.4%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の32.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.9%、平成30年4月1日以降のものについては30.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が60,623千円減少し、法人税等調整額が60,508千円、その他有価証券評価差額金が185千円、退職給付に係る調整累計額が300千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業部門を置き、各事業部門は、取り扱う製品・サービスについて戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ITソリューション」及び「プロダクトソリューション」の2つを報告セグメントとしております。

「ITソリューション」は、各種アプリケーションソフトの受託開発、コンサルティングからシステム開発、導入、運用保守までを一貫して行うシステムインテグレーションサービスを提供しております。また、情報システムの運用管理、アウトソーシング、ヘルプデスク、ネットワークの構築・保守などの各種サービス、ECソリューションを中心としたネットビジネス、さらにはネットワーク経由でソフトウェアやハードウェアなどを提供するクラウドサービスも行っております。

「プロダクトソリューション」は、通信系・制御系の組込みソフトウェア、ファームウェア、ミドルウェアの設計・開発、ならびに通信・画像処理などのボードやシステムLSIなどの各種ハードウェアの設計・開発を行っております。また、ソフトウェアからハードウェアにわたるエンベデッドトータルソリューションの提供に加え、モバイルデバイス向けの各種アプリケーションソフトなどによるサービス提供も行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表の作成方法と概ね同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

また、全社償却資産については、各報告セグメントに配分しておりませんが、その減価償却費については、合理的な基準により各報告セグメントに配分しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ITソリューション	プロダクトソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,012,389	11,151,405	28,163,795	—	28,163,795
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△59,595	59,595	—	—	—
計	16,952,793	11,211,001	28,163,795	—	28,163,795
セグメント利益	699,901	1,067,064	1,766,965	—	1,766,965
セグメント資産	9,579,264	3,194,129	12,773,394	7,455,845	20,229,239
その他の項目					
減価償却費	394,011	47,874	441,885	—	441,885
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	129,543	6,118	135,662	31,683	167,345

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント資産の調整額7,455,845千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金及び預金、管理部門の固定資産及び繰延税金資産等が含まれております。
 - (2) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額31,683千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ITソリューション	プロダクトソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,598,046	12,345,226	29,943,272	—	29,943,272
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△49,687	49,687	—	—	—
計	17,548,358	12,394,914	29,943,272	—	29,943,272
セグメント利益	655,959	1,364,417	2,020,377	—	2,020,377
セグメント資産	9,019,342	3,228,531	12,247,873	8,770,618	21,018,492
その他の項目					
減価償却費	395,056	59,646	454,702	—	454,702
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	226,961	184	227,146	77,291	304,438

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント資産の調整額8,770,618千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金及び預金、管理部門の固定資産及び繰延税金資産等が含まれております。
 - (2) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額77,291千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産の設備投資額であります。
- 2 セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	ソリューション事業	システム運用事業	データセンター事業	組込ソフトウェア開発	デバイス開発	その他	合計
外部顧客への売上高	9,812,644	2,544,272	2,749,929	7,262,012	3,762,515	2,032,420	28,163,795

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本電気㈱グループ	5,940,175	ITソリューション、プロダクトソリューション

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	ソリューション事業	システム運用事業	データセンター事業	組込ソフトウェア開発	デバイス開発	その他	合計
外部顧客への売上高	10,024,289	2,891,327	2,869,754	7,604,056	4,635,456	1,918,387	29,943,272

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本電気㈱グループ	5,961,589	ITソリューション、プロダクトソリューション

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	ITソリューション	プロダクト ソリューション	全社・消去	合計
減損損失	—	—	899	899

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	株式会社ナカヤ	東京都渋谷区	30,000	不動産賃貸業	なし	建物の賃借 役員の兼任 2名	賃借料の支払	731,928	保証金	558,077
									前払費用	65,873

(注) 1 「取引金額」には消費税等は含まず、「期末残高」には消費税等を含めて表示しております。

2 株式会社ナカヤは、当社役員多田修人が議決権の100%を直接保有しております。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等は以下のとおりであります。

賃借料は、近隣の取引情勢に基づいて決定しております。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	株式会社ナカヤ	東京都渋谷区	30,000	不動産賃貸業	なし	建物の賃借 役員の兼任 2名	賃借料の支払	731,488	保証金	558,077
									前払費用	65,787

(注) 1 「取引金額」には消費税等は含まず、「期末残高」には消費税等を含めて表示しております。

2 株式会社ナカヤは、当社役員多田修人が議決権の100%を直接保有しております。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等は以下のとおりであります。

賃借料は、近隣の取引情勢に基づいて決定しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成27年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

事務所の不動産賃借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は0.969%~1.854%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	12,232千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	7,845千円
時の経過による調整額	218千円
資産除去債務の履行による減少額	5,497千円
期末残高	14,799千円

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成28年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

社有建物解体時におけるアスベスト除去費用及び事務所の不動産賃借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年~26年と見積り、割引率は0.969%~2.048%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	14,799千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	14,097千円
時の経過による調整額	4,317千円
期末残高	33,215千円

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記の対象から除いております。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記の対象から除いております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当連結会計年度 (平成28年3月31日)	
1株当たり純資産額	891.70円	1株当たり純資産額	949.80円
算定上の基礎		算定上の基礎	
連結貸借対照表の純資産の部の合計額	13,286,131千円	連結貸借対照表の純資産の部の合計額	14,151,808千円
普通株式に係る純資産額	13,286,131千円	普通株式に係る純資産額	14,151,808千円
差額の主な内訳		差額の主な内訳	
該当事項はありません。		該当事項はありません。	
普通株式の発行済株式数	14,900,000株	普通株式の発行済株式数	14,900,000株
普通株式の自己株式数	192株	普通株式の自己株式数	230株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	14,899,808株	1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	14,899,770株

前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
1株当たり当期純利益	68.25円	1株当たり当期純利益	82.13円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
算定上の基礎		算定上の基礎	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,016,860千円	親会社株主に帰属する当期純利益	1,223,718千円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	1,016,860千円	普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	1,223,718千円
普通株主に帰属しない金額の主な内訳		普通株主に帰属しない金額の主な内訳	
該当事項はありません。		該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	14,899,808株	普通株式の期中平均株式数	14,899,807株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	21,587	—	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,569	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	23,156	—	—	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当該連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	第50期 連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
売上高 (千円)	5,993,651	14,081,779	20,825,961	29,943,272
税金等調整前四半期 (当期) 純利益 (千円)	93,476	716,401	1,167,752	2,054,577
親会社株主に帰属する 四半期(当期) 純利益 (千円)	46,257	462,397	752,411	1,223,718
1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	3.10	31.03	50.50	82.13

	第1四半期 連結会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)
1株当たり四半期純利益 (円)	3.10	27.93	19.46	31.63

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,068,863	3,209,182
受取手形	44,688	59,460
売掛金	※1 7,035,352	※1 6,877,702
商品	306,551	121,198
仕掛品	684,989	690,844
貯蔵品	2,655	2,599
前払費用	165,288	179,005
繰延税金資産	334,631	368,859
その他	26,351	7,332
貸倒引当金	△710	—
流動資産合計	10,668,661	11,516,186
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,851,839	2,714,163
構築物（純額）	42,377	37,982
車両運搬具（純額）	1,992	1,548
工具、器具及び備品（純額）	380,907	381,116
土地	3,861,051	3,861,051
建設仮勘定	—	4,000
有形固定資産合計	7,138,170	6,999,861
無形固定資産		
ソフトウェア	85,629	71,550
リース資産	370	—
その他	18,152	18,152
無形固定資産合計	104,152	89,702
投資その他の資産		
投資有価証券	104,662	104,997
関係会社株式	298,606	298,606
会員権	91,850	91,850
リース投資資産	1,569	—
破産更生債権等	—	388
長期未収入金	13,542	12,481
長期前払費用	17,327	37,813
敷金及び保証金	613,266	613,336
保険積立金	192,340	201,069
繰延税金資産	527,720	533,803
貸倒引当金	△18,562	△18,562
投資その他の資産合計	1,842,323	1,875,785
固定資産合計	9,084,645	8,965,349
資産合計	19,753,306	20,481,536

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	※1 2,164,120	※1 2,004,742
リース債務	21,587	—
未払金	317,783	371,950
未払法人税等	518,628	570,099
未払消費税等	564,871	231,369
未払費用	295,972	304,501
前受金	83,585	107,025
預り金	141,385	142,558
前受収益	684	684
賞与引当金	678,809	777,837
工事損失引当金	20,231	8,727
その他	1,573	1,722
流動負債合計	4,809,233	4,521,219
固定負債		
リース債務	1,569	—
退職給付引当金	1,606,585	1,714,085
役員退職慰労引当金	313,241	310,062
資産除去債務	14,799	33,215
固定負債合計	1,936,195	2,057,362
負債合計	6,745,429	6,578,581
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500,000	5,500,000
資本剰余金		
資本準備金	86,080	86,080
資本剰余金合計	86,080	86,080
利益剰余金		
利益準備金	438,237	471,761
その他利益剰余金		
別途積立金	4,500,000	4,500,000
繰越利益剰余金	2,452,384	3,325,939
利益剰余金合計	7,390,622	8,297,701
自己株式	△107	△145
株主資本合計	12,976,594	13,883,635
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	31,283	19,319
評価・換算差額等合計	31,283	19,319
純資産合計	13,007,877	13,902,954
負債純資産合計	19,753,306	20,481,536

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月 31日)
売上高		
情報サービス売上高	24,963,340	26,673,272
システム機器売上高	1,881,467	1,758,018
売上高合計	26,844,808	28,431,291
売上原価		
情報サービス売上原価	20,606,030	22,010,412
システム機器売上原価	1,682,647	1,606,256
売上原価合計	22,288,677	23,616,669
売上総利益	4,556,130	4,814,622
販売費及び一般管理費		
役員報酬	114,810	113,365
執行役員報酬	89,925	82,312
給料手当及び賞与	1,329,986	1,208,784
退職給付費用	116,669	73,451
福利厚生費	224,092	237,855
通信交通費	124,123	130,213
業務委託費	258,279	274,096
賃借料	103,957	101,367
減価償却費	33,846	65,480
その他	452,734	499,987
販売費及び一般管理費合計	2,848,425	2,786,913
営業利益	1,707,705	2,027,708
営業外収益		
受取利息	19	8
受取配当金	※1 62,010	2,154
受取手数料	6,326	6,219
受取賃貸料	※1 20,464	※1 20,464
受取保険金	2,500	10,000
保険返戻金	29,184	—
その他	55,344	16,251
営業外収益合計	175,850	55,099
営業外費用		
支払利息	6,988	0
債権売却損	1,172	2,665
為替差損	—	2,809
会員権評価損	1,050	—
その他	0	33
営業外費用合計	9,210	5,509
経常利益	1,874,345	2,077,298

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	—	※2 13
特別利益合計	—	13
特別損失		
固定資産除却損	※3 4,975	※3 9,492
固定資産売却損	※4 914	—
減損損失	—	899
特別損失合計	5,890	10,392
税金等調整前当期純利益	1,868,455	2,066,918
法人税、住民税及び事業税	780,907	858,912
法人税等調整額	36,770	△34,318
法人税等合計	817,677	824,594
当期純利益	1,050,778	1,242,324

【売上原価明細書】

1) 情報サービス売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 労務費	※1	9,655,440	46.7	10,055,106	45.7
II 外注費		7,973,113	38.6	8,899,009	40.4
III 経費	※2	3,034,652	14.7	3,062,152	13.9
当期発生総原価		20,663,206	100.0	22,016,268	100.0
仕掛品期首たな卸高		627,812		684,989	
計		21,291,019		22,701,257	
仕掛品期末たな卸高		684,989		690,844	
当期情報サービス売上原価		20,606,030		22,010,412	

(脚注)

前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1 原価計算の方法 情報サービス売上原価についてはプロジェクト別に個別原価計算を行なっております。 なお、原価計算は実際原価によっておりますが、一部については予定値を用い、期末において原価差額の調整を行なっております。	1 原価計算の方法 同左
2※1 労務費には次の費目が含まれております。 給料手当及び賞与 7,842,914千円 退職給付費用 502,145千円	2※1 労務費には次の費目が含まれております。 給料手当及び賞与 8,155,738千円 退職給付費用 404,373千円
3※2 経費のうち主なものは、次のとおりであります。 賃借料 943,405千円 通信交通費 323,218千円 減価償却費 403,782千円 業務委託費 589,596千円	3※2 経費のうち主なものは、次のとおりであります。 賃借料 975,624千円 通信交通費 310,624千円 減価償却費 384,584千円 業務委託費 587,939千円

2) システム機器売上原価明細書

		前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)		金額(千円)	
I 商品期首たな卸高			476,555		306,551
II 当期仕入高			1,512,643		1,420,903
計			1,989,198		1,727,454
III 商品期末たな卸高			306,551		121,198
当期システム機器売上原価			1,682,647		1,606,256

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	5,500,000	86,080	86,080	415,887	4,500,000	1,771,453	6,687,340
会計方針の変更による 累積的影響額						△123,999	△123,999
会計方針の変更を反映した 当期首残高	5,500,000	86,080	86,080	415,887	4,500,000	1,647,453	6,563,341
当期変動額							
剰余金の配当						△223,497	△223,497
利益準備金の積立				22,349		△22,349	—
当期純利益						1,050,778	1,050,778
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	22,349	—	804,931	827,280
当期末残高	5,500,000	86,080	86,080	438,237	4,500,000	2,452,384	7,390,622

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△107	12,273,312	27,663	27,663	12,300,976
会計方針の変更による 累積的影響額		△123,999			△123,999
会計方針の変更を反映した 当期首残高	△107	12,149,313	27,663	27,663	12,176,977
当期変動額					
剰余金の配当		△223,497			△223,497
利益準備金の積立		—			—
当期純利益		1,050,778			1,050,778
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			3,619	3,619	3,619
当期変動額合計	—	827,280	3,619	3,619	830,900
当期末残高	△107	12,976,594	31,283	31,283	13,007,877

当事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	5,500,000	86,080	86,080	438,237	4,500,000	2,452,384	7,390,622
当期変動額							
剰余金の配当						△335,245	△335,245
利益準備金の積立				33,524		△33,524	—
当期純利益						1,242,324	1,242,324
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	33,524	—	873,554	907,078
当期末残高	5,500,000	86,080	86,080	471,761	4,500,000	3,325,939	8,297,701

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△107	12,976,594	31,283	31,283	13,007,877
当期変動額					
剰余金の配当		△335,245			△335,245
利益準備金の積立		—			—
当期純利益		1,242,324			1,242,324
自己株式の取得	△38	△38			△38
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			△11,963	△11,963	△11,963
当期変動額合計	△38	907,040	△11,963	△11,963	895,077
当期末残高	△145	13,883,635	19,319	19,319	13,902,954

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(3) 貯蔵品

総平均法による原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)、及び、アウトソーシング事業に関連する建物附属設備、工具、器具及び備品については、定額法によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	6～50年
車両運搬具	5～7年
工具、器具及び備品	5～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に対応する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金制度は、平成19年5月17日開催の取締役会において、平成19年6月28日をもって廃止することを決議したことにより、制度廃止日以降繰入を実施しておりません。従って、当事業年度末における役員退職慰労引当金残高は、当該決議以前から就任している役員に対する平成19年6月28日時点における要支給額であります。

(5) 工事損失引当金

受注制作のソフトウェア開発のうち、当事業年度末において工事損失の発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ. 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗度の見積りは原価比例法)

ロ. その他の工事

工事完成基準

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。なお、控除対象外消費税及び地方消費税については、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「貸倒引当金戻入額」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。また、前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「仕入割引」は、重要性が低下したため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。それから、前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取手数料」及び「受取保険金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「貸倒引当金戻入額」に表示していた27,620千円、「仕入割引」8,677千円、「その他」27,873千円は、「受取手数料」6,326千円、「受取保険金」2,500千円、「その他」55,344千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に係る注記

関係会社に対する主な資産及び負債は下記のとおりであります。(区分掲記したものを除く)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
売掛金	36,631千円	18,020千円
買掛金	238,935千円	222,203千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社に係る注記

関係会社との取引に係る事項は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
受取配当金	60,000千円	—千円
受取賃貸料	13,402千円	13,402千円

※2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物	—千円	13千円

※3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物	4,635千円	2,000千円
工具、器具及び備品	164千円	6,664千円
ソフトウェア	174千円	827千円
計	4,975千円	9,492千円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物	914千円	一千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成27年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式298,606千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成28年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式298,606千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
(1) 流動の部		
繰延税金資産		
売上原価	15,164千円	37,989千円
貸倒引当金	9千円	1,712千円
賞与引当金等	258,525千円	268,170千円
未払事業税等	47,976千円	52,827千円
工事損失引当金	6,696千円	2,693千円
その他	6,257千円	5,466千円
繰延税金資産合計	334,631千円	368,859千円
繰延税金資産の純額	334,631千円	368,859千円
(2) 固定の部		
繰延税金資産		
貸倒引当金	4,209千円	3,985千円
減損損失	419,009千円	394,831千円
投資有価証券評価損	27,524千円	26,060千円
退職給付引当金	519,840千円	525,082千円
役員退職慰労引当金	101,302千円	94,941千円
その他	6,956千円	11,769千円
繰延税金資産小計	1,078,842千円	1,056,670千円
評価性引当額	△539,227千円	△515,213千円
繰延税金資産合計	539,615千円	541,456千円
繰延税金負債との相殺	△11,894千円	△7,652千円
繰延税金資産の純額	527,720千円	533,803千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	9,295千円	3,302千円
資産除去債務に対応する費用	2,598千円	4,349千円
繰延税金負債合計	11,894千円	7,652千円
繰延税金資産との相殺	△11,894千円	△7,652千円
繰延税金負債の純額	一千円	一千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率 (調整)	35.6%	33.1%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.5%	0.5%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	△1.2%	△0.0%
住民税均等割等	0.9%	0.8%
留保金課税	3.7%	2.2%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	4.3%	2.7%
評価性引当額の増減	0.0%	0.2%
その他	△0.1%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	43.8%	39.9%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の32.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.9%、平成30年4月1日以降のものについては30.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が55,823千円減少し、法人税等調整額が56,004千円、その他有価証券評価差額金が181千円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,927,727	140,959	15,412 (899)	7,053,274	4,339,111	275,735	2,714,163
構築物	304,949	—	—	304,949	266,967	4,395	37,982
車両運搬具	12,389	453	—	12,842	11,294	898	1,548
工具、器具及び備品	1,269,435	144,861	155,571	1,258,725	877,609	137,989	381,116
土地	3,861,051	—	—	3,861,051	—	—	3,861,051
建設仮勘定	—	4,000	—	4,000	—	—	4,000
有形固定資産計	12,375,553	290,274	170,983 (899)	12,494,844	5,494,983	419,017	6,999,861
無形固定資産							
ソフトウェア	426,315	17,424	295,735	148,004	76,453	30,676	71,550
リース資産	7,403	—	7,403	—	—	370	—
その他	27,397	—	9,244	18,152	—	—	18,152
無形固定資産計	461,116	17,424	312,384	166,156	76,453	31,046	89,702
長期前払費用	68,739	42,999	58,704	53,034	15,220	22,513	37,813
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1 「当期減少欄」の()内は内書きで、減損損失による帳簿価額の切下げ額であります。

2 ソフトウェアの減少額の主なものは、償却完了に伴う除却292,396千円であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	19,272	—	—	710	18,562
賞与引当金	678,809	777,837	678,809	—	777,837
工事損失引当金	20,231	8,727	20,231	—	8,727
退職給付引当金	1,606,585	183,095	75,595	—	1,714,085
役員退職慰労引当金	313,241	—	3,179	—	310,062

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項ありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として「単元未満株式買取・買増手数料標準」に定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 公告掲載ホームページアドレス http://www.nsw.co.jp/ir/koukoku.html
株主に対する特典	該当事項はありません

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第49期)	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日	平成27年6月25日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類			平成27年6月25日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書 及び確認書	事業年度 (第50期第1四半期)	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	平成27年8月14日 関東財務局長に提出
	事業年度 (第50期第2四半期)	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	平成27年11月13日 関東財務局長に提出
	事業年度 (第50期第3四半期)	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	平成28年2月12日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第9号の2（株主総会における議決 権行使の結果）に基づくもの		平成27年6月29日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年6月28日

日本システムウエア株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員 公認会計士 川崎 浩 ㊞
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 鈴木 誠 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本システムウエア株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本システムウエア株式会社及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本システムウェア株式会社の平成28年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本システムウェア株式会社が平成28年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年6月28日

日本システムウェア株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 川崎 浩 ㊞

業務執行社員 公認会計士 鈴木 誠 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本システムウェア株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本システムウェア株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。